

【基本施策の目的】

市民の暮らしや企業活動を支えるため、将来にわたって安全で安心な水道水を安定的に供給します。

【基本施策の今後の優先度】

判定区分	基本施策における課題の状況及び対応策
	<p>基本施策の指標値は基本的に改善傾向にあるものの、依然として漏水事故件数の削減や安全で安心な水道水の安定供給を持続させるという取り組むべき課題もあり、今後もしっかりと取り組んでいく必要がある。</p> <p>しかし、当面は基本的に現状の取り組みを継続的に進めていく予定であり、同一分野内における他の基本施策との比較の結果、同一分野内における今後の経営資源の配分の優先度が普通と判断した。</p>

【指標の分析】

指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、今後の対応
断水を伴う突発的な漏水事故件数	件	実績	7	7	6	7	5	<p>56件の漏水事故件数の内訳は、配水管(水道本管)が15件(内老朽管は10件)、の給水管(宅内への配管)が41件(内老朽管は30件)であり、全56件の内、断水を伴う漏水が5件(内老朽管は5件)という実績であった。年々老朽化は進むため、布設替を行わない場合、漏水事故は増加すると考えられる。</p> <p>※老朽管：法定耐用年数を経過した管</p>	<p>漏水修繕実績の多い法定耐用年数の経過したVP管、鋼管を耐震性のある管に布設替することで、布設替した箇所での漏水事故の可能性は非常に低くなる。今後、法定耐用年数の経過した管を引き続き優先的に更新していくことにより漏水事故を減らしていく必要がある。</p>
		目指す方向性	↓						
安全でおいしい水と思う市民の割合	%	実績	80.1	81.1	81.5	79.4	80.7	<p>水の温度、含まれるミネラルや残留塩素によるカルキ臭などが、おいしさの感じ方に影響を与える。消毒に使用する塩素を適正に調整し、毎日検査している配水の末端で、0.1mg/lから0.4mg/lの範囲に維持すれば安全でおいしい水と考えることを維持できると考える。今回、1.3ポイント上がった要因は、個人の主観による影響が大きいと思われ、誤差の範囲と考える。</p>	<p>残留塩素の調整は行なえるものの、おいしい水と感ずるのは、人それぞれの主観的なものであり、80%前後であれば概ね良好と判断する。今後も指標値の改善に向けた適切な水質監視や水質検査、維持管理などの取組を継続していく。</p>
		目指す方向性	↑						

【施策推進事業の考え方】

経常事業	削減に関する具体的な考え方	—
実施計画事業	資源投入の考え方	—

展開方向1	名称	安全でおいしい水を供給します									
	目的	〇市民や事業者が水道水を常に安心して使用できるようにします。									
	所管課	上下水道部									
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容		
水質基準不適合率	%	実績		0	0	0	0	0	配水量の約3割を占める自己水源(井戸水)の特性に合ったストリップ処理又はエアレーション処理(いずれも水を空気に接触させる)の浄水処理など、水道施設の運転監視をすることにより、適切な水質を保つとともに、施設の適正な維持管理を行ってきた。年間28回の水質検査を、今後も維持していく。	小牧市水道水質検査計画に基づく水質検査を、今後も維持する。	
		目指す方向性		0%							
展開方向2	名称	いつでも安定的に水を供給します									
	目的	〇地震などの災害時の被害の抑制と影響の最小化および経年劣化した水道管の漏水対策により水道水の安定供給を確保します。									
	所管課	上下水道施設課									
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容		
主要幹線管路の耐震管によるループ化率	%	実績	67.4	77.6	77.7	83.0	86.5	平成18年度策定の上水道耐震化対策計画に基づき工事を実施し、着実に進捗している。残りの工事区間は国道や一級河川の横断、住宅密集地であり関係機関との調整により年次計画の見直しを行った。	今後も関係機関と綿密な調整を図り早期に完了を目指す。		
		目指す方向性									
配水管の耐震化率	%	実績	15.0	18.5	19.8	20.9	22.2	配水管の更新は全て耐震管で施工しており、耐震化率は向上している。	耐震化については、災害時の重要給水施設に関連する配水管や地震時に液状化が予測される地区を優先して進める。		
		目指す方向性									

名称		健全な経営を持続します						方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因		今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容	
展開方向3		目的		○将来にわたり安定した事業運営を展開します。							
所管課		上下水道経営課、上下水道業務課									
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度				
水道料金の収納率	%	実績	98.8	98.9	98.9	99.0	99.0	徴収員や検針員、開栓作業員が空家や更地情報を集め、職権中止を行った他、開栓作業員が作業時に口座振替用紙のポストイングを実施し納付確率の高い口座振替を促した。また、納付相談や電話催告、分納不履行停水を徹底し、常連化の排除、支払いの習慣化を図り収納率の向上に努めた。		引き続き未収金対策を継続し、収納率の向上に努める。	
		目指す方向性									
経常収支比率	%	実績	112.1 (H26年度)	/	111.7	111.4	114.7	水道新規加入に伴う分担金収入の増に加え、承認基本水量の見直しによる県からの受水費の抑制や漏水修繕に係る修繕費などの費用の減が主な原因。		人口減少社会の到来に伴い水需要が伸び悩み、料金収入の増加が期待できない状況ではあるが、より一層の経営効率化を進め、安定的な事業運営に努める。	
		目指す方向性									